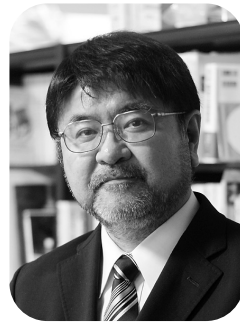


シリーズ

中学校武道

授業の充実に向けて ⑬

空手道授業の実践報告と必修化の課題



沖縄尚学高等学校附属中学校 副校長
教育博士
名城 政一郎

2007年9月、本校では「国際社会で信頼されるたくましい教養人の育成」を目標に、空手道を体育の授業で必修とした（高等部では2008年から）。沖縄県空手道連盟の協力のもと、沖縄の伝統空手の4流派（剛柔流・上地流・小林流・松林流）の中から一つを選択し、高校卒業までに生徒全員が黒帯を取得するのが目標である。空手道授業の必修化は沖縄県で初の試みであり、ましてや全員が有段者をめざすという方針も県内初である。年に2回、昇級試験も実施している。



1 沖縄の教育の特殊性と空手道

剣道、柔道ではなく、なぜ空手道なのか？ まず、本校では武道としての空手道と、グローバルスタンダードとして世界で認められている沖縄固有の文化としての空手道に、教育的価値を見出している。本校では、柔道部も剣道部も活動している。特に柔道部は毎年県内1、2位を争う強豪として知られ、平成3年には全国制覇の経験もある。本校は柔道の武道としての魅力、そしてその教育的価値も十分認識している。しかし、柔道と空手道の違いは、柔道が日本が発祥であるのに対して、空手道はさらに日本の中の沖縄が発祥の地として世界で認知されている点である。

筆者は、2004年～2006年の2年間、米国ミネソタ州のSt. John's/St. Benedict 大学で

客員講師として日本近現代史の講義を担当したが、空手道を通しての沖縄の認知度の高さに驚かされるのが少なくなかった。ある女子学生の次の言葉が特に印象に残っている。「私の祖父は船越義珍先生から、父は祖父から、そして私は父から空手道を学びました。私の夢はいつか沖縄に行つて本物の空手道を学ぶことです」

空手道を沖縄の学校の教育課程に導入することは、単に武道を学ばせ文化を継承する以上の意味をもつ。空手道の持つ教育力もさることながら、それ以上に強調したいのは、沖縄の空手道がグローバルスタンダードとして世界の多くの人々に認められており、毎年、空手道を学ぶ目的で沖縄を訪れる外国人が後を絶たないという事実である。

本校の25年の歴史、そして明治維新以降の沖縄の歴史を振り返ると、「追いつけ追い越せ」のスローガンの下、沖縄の学校は常に本土のスタンダードを目標



に、換言すれば、沖縄を本土に近づけるべく、さまざまな努力をしてきた。沖縄も日本であるから、沖縄が本土をモデルに、日本人としての教養、価値観、行動様式を身につけようと努力するのは当然である。しかし、沖縄独自の文化、特にグローバルスタンダードとして世界で認められている文化を教育に取り

入れ、まねをすることでは得られない本物の自信と誇りを身につけることは沖縄にとってより価値のあることである。これまでのように沖縄が本土をモデルに、マイナスをゼロに近づける教育をしている限り、沖縄は日本に積極的貢献はできない。沖縄が沖縄でしかない教育、つまりプラスを生み出す教育を

（資料２）指導計画

学 期		1学期					2学期				3学期		
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
週	1・2・3	4・5・6	7・8・9・10・11・12		13・14・15	16・17・18	19・20・21	22・23・24	25・26・27	28・29・30・31・32		33・34・35	
1年	空手着の付け方・帯の締め方 礼法－座礼・立礼の仕方 立ち方－結び立ち・閉足立ち・平行立ち・四股立ち 自然立ち・前屈立ち 拳の握り方 受け方－上段受け・中段受け・下段受け 受ける位置・拳先・手首の位置 突き－上段突き・中段突き・四股立ちからの中段突き 蹴り－前蹴り 形－普及形Ⅰ（初心者向けに普及させるために1941年に創作された沖縄空手界共通の形。普及形Ⅱもあり） 目標－空手道に関心・興味を持たす 空手道の授業のみでなく通常から相手を尊重し礼をすることを理解させる 普段の生活から姿勢を正すことを教える					柔軟性－柔軟体操 体力強化－筋力・持久力・瞬発力の強化 腕立て伏せ・腹筋・スクワット等 空手道の歴史・各流派の特徴を学ぶ 体育祭での空手道演武準備 昇級審査準備－五級・基本動作・普及形Ⅰ（11月 日） 各流派分け 形－普及形Ⅱ 共通の基本動作等継続				基本動作等は1・2学期同様継続 各流派の基本及び形			
2年	基本動作等は1学年同様継続 各流派の基本・形修得 昇級審査（7月 日） 四級審査－基本動作・普及形Ⅱ 四級確認授業 目標－初心に帰る 協力して教えあう行動（協調） 学習意欲・集中心・忍耐力を高める					基本動作等は1学期同様継続 対人3本組手 小手・下肢等の鍛え 各流派の基本・形修得 形・動作の意味の解釈				基本動作等は1・2学期同様継続 各流派の基本及び形 三級昇級審査（2月 日） 三級昇級審査－基本動作・普及形ⅠかⅡ・三本組手 三級審査確認授業			
3年	基本動作等は1・2学年同様継続 各流派の基本・形修得 昇級審査（7月 日） 三級昇級審査－基本動作・普及形ⅠかⅡ・三本組手 三級審査確認授業 目標－力強く突き蹴り受けができるか 人前で一人で発表（演武）できるようにし、指導することもできるように（統率力・判断力）					基本動作等は1学期同様継続 対人3本組手 各流派の基本・形修得				基本動作等は1・2学期同様継続 各流派の基本及び形 二級昇級審査（2月 日） 二級昇級審査－各流派の基本と形 二級審査確認授業			

⑦ 授業では形・約束組手のみを実施し、自由組手は希望者のみ部活動で行う。

⑥ 中1では年1回、中2、中3では年2回の昇級試験を実施する。

⑤ 中2より生徒の希望に基づき、剛柔流・上地流・小林流・松林流から一つを選択する。

④ 最初の1年間は流派に分かれず、礼法・立ち方・拳の握り方・受け方・突き・蹴りの基礎練習および普及形Ⅰ・Ⅱの習得に集中する。

③ 全員が高校卒業までに段位を取得することを目標とする。

② 全生徒必修である。

① 男女合同授業である。

本校の空手道授業の特徴

本校体育科教諭と連盟派遣講師の先生方で、作成したものである。

（資料１）沖縄県空手道連盟と締結した協定書

空手指導にかかわる協定書	
学校法人尚学学園（以下学園という）と沖縄県空手道連盟（以下連盟という）は学園の空手授業導入につき、次の通り協定する。	
第1条	学園と連盟は、伝統文化継承、心身の鍛練、国際社会における重要性等、空手の教育的意義について合意し、その実践に努める。
第2条	学園と連盟は、空手指導をととして、文武両道のたくましい進学校の実現に努める。
第3条	連盟は沖縄伝統空手の流派より授業担当者を選定し、学園に推薦する。
第4条	全生徒の3年ないし6年での段位取得を目標とする。
第5条	上記以外の授業ならびに指導にかかわる事項は学園と連盟で協議の上決定する。
学校法人尚学学園および沖縄県空手道連盟は、平成19年8月4日をもって本協定を締結し、互いの協力により、伝統文化に裏打ちされた、国際社会で範となる平和を愛するたくましい教養人の育成に努めることを、ここに誓約する。	
学校法人 尚学学園 理事長 名城政次郎	沖縄県空手道連盟 会長 比知屋義夫

実践して初めて、沖縄は日本に、そして世界に貢献できる。そのような教育の一環として空手道を授業に導入したのである。

2007年の6月、沖縄県空手道連盟の比知屋義夫会長、島袋章雄理事長にお会いし、前記の主旨を説明し、本校での空手道授業の導入への協力を依頼したところ快諾を得た。同年8月に資料1のような協定を締結した。なお、流派の選定は連盟に一任した結果、剛柔流、上地流、小林流、および松林流に決まった。派遣講師は連盟に推薦していただいた。

現在、中1、中2、中3で男女とも全員が、週50分1コマの空手道授業を受けている。本校の体育科教諭と連盟からの4人の派遣講師の先生方がティ

指導体制

2

指導計画

3

指導計画は資料2のとおり。



派遣講師の先生方（写真左から、小林流・上間康弘 範士九段、剛柔流・辛喜源成 教士八段、松林流・平良慶孝 範士九段、上地流・新城清秀 教士八段）

（資料３）具体的な学習内容

〈沖縄県教育委員会による学校体育指導資料『学校体育における空手道指導の手引 第２集』P.7より抜粋〉

項 目	初歩的段階	進んだ段階	さらに進んだ段階
知 識	・歴史 ・部位の名称 ・立ち方の名称 ・マナー ・その他		
礼 法	・立ち方、座り方 ・座礼、立礼		
立 ち 方	・結び立ち ・平行立ち ・自然立ち（基立ち） ・四股立ち ・前屈立ち ・閉足立ち ・八字立ち	・猫足立ち ・三戦立ち	・形に応じた立ち方
その場基本動作	・突き 平行立ち（四股立ち）による突き 前屈立ち（自然立ち）による逆突き 前屈立ち（自然立ち）による順突き ・蹴り 平行立ちによる前蹴り 前屈立ち（自然立ち）による後足蹴 ・受け 平行立ち（自然立ち）による上段受け 平行立ち（自然立ち）による中段受け 四股立ち（自然立ち）による下段受け ・呼吸法	・突き 掌底突き ・打ち 手刀打ち 鉄槌打ち 裏拳打ち ・蹴り 横蹴り 回し蹴り ・受け 手刀受 掛け受け 掌底受け	・打ち 背刀打ち
移動基本動作	・追い突き ・逆突き ・前蹴り ・追い突きからの逆突き→逆突きからの順突き ・後足前蹴りからの順突き ・受け 前屈立ち（自然立ち）による上段受け 前屈立ち（自然立ち）による中段受け 前屈立ち（自然立ち）による下段受け	・受けからの突き、蹴りによる連続動作等 *下段受けからの前蹴り *中段受けからの逆突き *その他	
移動組手基本動作	・フットワーク ・順突き ・追い突き ・順突きからの逆突き（二連突き） ・前蹴り ・足を組み変えての順突き ・体さばき 歩み足 送り足 開き足 継ぎ足 その他	・足技からの手技による連続動作 *足払いからの順突き *前蹴りからの順突き *その他 ・手技からの足技による連続動作 *順突きからの横蹴り *その他 ・足技の連続動作 *足払いからの回し蹴り *その他	・逆突きからの順突き ・三連突き ・三連蹴り ・三連続技+二連続技 ・その他
基本約束組手	・追い突きに対して上段受けからの逆突き ・逆突きに対して中段内受けからの逆突き ・前蹴りに対して下段受けからの突き	・連続技に対して、受けからの攻撃動作 *二連突きを受けて、逆突き *その他	
約束組手	・中段逆突きを一步下がって受け流しからの上段逆突き ・中段逆突きを払い受けからの上段逆突き ・上段順突きを一步下がって受け流しからの中逆突き ・上段順突きを受け流しからの中段逆突き ・中段前蹴りを開き足払いからの中段逆突き ・中段前蹴りを一步下がって払い受けからの中段逆突き	・二連突き（上段突き、中段突き） *上段順突きを一步下がって手前受け流し、続く中段逆突きを一步下がって前手払い受けからの上段突き *上段順突きを一步下がって手前受け流し、続く上段逆突きを一步下がって後手払い受けからの上段順突き	・三連続技に対して受けからの攻撃動作 ・その他連続技に対して受けからの攻撃動作
自由組手	・お互いに組手構えから攻撃部位、攻守を決めずに自由に攻防しあう。		
形 1	・普及形Ⅰ		
形 2	・普及形Ⅱ		
形 3	・自由形		



5

学習内容

本校の空手道授業の学習内容については、沖縄県教育委員会による学校体育指導資料『学校体育における空手道指導の手引第２集』（以下、『指導の手引』とする）に基づくものである。本校では以下の６項目を空手道授業の目標としている。

①空手道の歴史や特性を理解させ、郷土の伝統文化に触れさせる。

②空手道の国際社会における評価を認識させ、国際社会における空手道の意義を理解させる。

③礼法・立ち方・突き・打ち・当て・受け・蹴り・呼吸法などの基本動作を身につけさせる。

④形技能（普及形Ⅰ・Ⅱ、自由形）を身につけさせ、形の試合ができるようにする。

⑤基本動作で身につけた技を、約束組手などの対人的技能へ

6

学習内容の取り扱い

学習内容の取り扱いについては、『指導の手引』P.8―10を参考としている。ここに抜粋（資料４）し、紹介する。

発展させ、技能の習得段階に応じた組手ができるようにする。

⑥形技能は、体育祭の演武として、また地域等で行うスポーツとしても役立つことを理解させる。

これらの６つの目標のうち、②は「国際社会で信頼されるたくましい教養人の育成」という本校独自の目標に沿ったものであり、②以外は『指導の手引』の目標を踏襲したものである。具体的な学習内容は資料３のとおりである。繰り返しになるが、本校の空手道授業では、現在のところ自由組手は行っていない。

近代柔道

Judo

全国の柔道ファン必見の本格派専門誌!

別冊付録共
特別定価 900円(税込)

8月号

【全日本学生優勝大会】

東海大

栄光の時代へ

2年連続の優勝旗奪取!

別冊付録

2009 ロッテルダム世界選手権

●日本代表応援ガイド

大東正彦 [旭化成]

福見友子 [了徳寺学園職]

展望

近畿インターハイ

飛塚雅俊5段の「小外刈り」

好評発売中

古豪復活、天理大が2位に

女子は帝京大が5年ぶりの栄冠獲得

（資料４）学習内容の取扱い

〈沖縄県教育委員会による学校体育指導資料『学校体育における空手道指導の手引 第２集』P.8—10より抜粋〉

（１）知識 知識は、導入段階（授業計画会）で主に指導し、空手道を学ぶ意義（歴史や特性）を理解させるとともに、立ち方・拳の握り方をはじめ、試合の様子、「礼」についての考え方や礼法を正しく学習させる。 （２）基本動作 基本動作は対人的技能への導入としての要素をもっているので、対人的技能への移行がスムーズに行われるように対人的技能や形技能と関連づけて指導する。 また、呼吸法は集中力を高めるとともに精神を安定させる効果があり、形・組手技能の習得に必要であることを理解させることが大切である。 技能の習熟を図るために、突き・受け・蹴りなどの基本動作をその場から移動して練習（移動基本動作）することが大切である。ただし、練習は単調になりやすいので興味を失わせないように、下記のように教具等を工夫して練習や試合をさせる。 （例） ・いろいろな立ち方の試合をさせる。 ・突き・蹴りの練習でサンドバッグやキックミット、パンチングミット等を利用する。 ・蹴りの練習段階に応じて、腰掛けなどを利用する。 ・蹴りの練習にサッカーボールを使用し、リフティングなどをさせる。 ・立ち方の練習で、足型を取ったマットなどを利用する。 （３）形技能 形技能は、相手の動きを想定し、攻防を一つの流れとして構成されたものであることを理解させ、ここでは普及形Ⅰ・Ⅱ、自由形を中心に学習させる。そして、形技能の上達が、対人的技能の向上に役立つことを形の分解などを通して理解させ、意欲的に学習させるようにする。また、個人練習だけでなく、３～７人のグループに分け団体形の練習をさせることによって、生徒の協調性を向上させ、上達の楽しみ、完成の喜びを味わわせるようにする。 ここでは目線・気合い（掛け声）・力の集中・極め・残心などについても対人的技能同様に取り扱う。 （例） ・ビデオを活用する。・鏡を活用する。 ・学習カードを活用する。（県中体研発刊の体育実技ノート等） ・普及形Ⅰ・Ⅱ、自由形の写真を活用する。（学校体育における空手道指導の手引第１集） ・グループ練習（団体形等）を取り入れる。 （４）対人的技能 対人的技能は、相手を攻めることや相手の攻撃をかわし、反撃したりする技能で構成されており、攻撃技と防御技とに分けられる。そのために基本動作で学んだ技を、生徒の実態に応じて、基本約束組手や約束組手、自由組手と積極的に取り入れていく。また、目線・気合い（掛け声）・力の集中・極め・残心などについても指導する。 また、対人的技能は、生徒が最も興味を持つ内容なので安全面には面やサポーターなどの安全具を着けさせるなど留意して学習させることが大切である。 （例） ・チプルサーエー お互いに頭を触ったりする。先に頭を触ったものが勝者となる。両手で相手の攻撃を防御する。目に対する危険防止のためパンチングクラブや面を着用したほうがよい。 ・タッチ組手	お互いに体を触ったりする。危険防止のため安全具を使用する。 （５）試合 空手道の試合には、形と組手の試合がある。試合は、生徒の実態に応じて、安全具に留意しながら行わせる。 形の試合は、個人あるいは集団で演武する形式で行わせる。また、組手の試合は、それまで学習した技能だけを使ってできる試合など、生徒の技能の習得の程度に応じて行わせる。 自由組手の練習によって高められた技能を、競技規則に従って行わせる。そのためには、競技規則を十分に理解させることや、安全具を装着し、規則や礼法を守り、互いに相手を尊重し、健康・安全に留意して試合ができるようにする。 （形の試合例） ①紅白試合 二人同時に演武させ、審判員の紅白の旗によって勝敗を判定する。 ②形試合 一人又は団体で演武させ、審判員の点数によって勝敗を決定する。 試合の取り扱いに当たっては、次のような配慮が必要である。 ○礼を正しく行わせる。 ○形の判定基準（順序、気合い、姿勢、力強さ、目線、突き・受け・蹴りなどの正確さ）を理解する。 ○審判の仕方についても学習させる。 ○「ムチミ」「チンクチ」について触れさせる。※ （基本約束組手の試合例） 形から組手へと発展する段階において、練習・試合をさせるとよい。 ①５本組手の試合〈少年基本組手試合より〉 ア 上段突きと上段受け イ 中段突きと中段受け ②基本一本組手 ア 上段突きと上段受け イ 中段突きと中段受け ウ 前蹴りと下段受け （組手の試合例） ①突き技による試合 順突きだけ、または逆突きだけというふうに、使う技を決めて行わせる。 ②足技（蹴り、足払い）による試合 ③自由組手の試合 基本約束組手および組手の試合の取り扱いに当たっては、次のような配慮が必要である。 ○必ず安全具を着けてから行わせる。 ○礼を正しく行わせる。 ○積極的に技を出し合うようにさせる。 ○極めで気合い（「エイ」「ヤー」など）を出すようにさせる。 ○技の判定基準（良いフォーム、正しい態度、気力、残心、適切なタイミングと正確な距離）について理解させる。 ○審判の仕方についても学習させる。 ※「ムチミ」「チンクチ」について ・「ムチミ」…必要最小限の動きでの攻防という、武道としての空手道の本質を踏まえた、永きにわたる鍛錬の過程で、技が緩急自在で、粘りがあり、正確無比なものへと練られていくさま。 ・「チンクチ」…永きにわたる鍛錬の結果、空手道に必要な不可欠な体力、筋力、スピード、柔軟性、巧緻性、および技をまとめる調整力が鍛え抜かれ、十分備わっているさま。 （解説：沖縄県立芸術大学教授 佐久本嗣男氏）
	（６）態度 中・高等学校で初めて学習する生徒が大部分なので、健康・安全に留意しながら互いに協力して、計画を立て、礼儀正しく、公正な態度で練習や試合ができるようにする。

本校では、中学校の教育課程における武道の必修化には、日本発祥の文化の伝承を通して心技体の充実を図る、いわば人間形成面での教育的価値に加え、国際人としての素養を育むという側面があることを強調している。柔道、剣道、なぎなた、合気道など、どのような武道を取り入れるにせよ、この二つの側面は明確に意識されるべきであろう。教育現場での普及度の点では、空手道は他の武道に及ばないであろう。しかし、世界の空手道愛好家は5000万人をくだらないといわれている。沖縄の人口が130万人であることを考えると、この5000万という数字は決して小さくない。すなわち、空手道が国際社会で評価されている武道の一つであることは間違いない。

9 おわりに

沖縄県教育委員会の掲げる空手道の特性は以下の通りである（『指導の手引き』P.4）。空手道の教育的価値を評価する一助となれば幸いである。

①空手道は、突き・蹴り・受けなどにより相手と攻防し競い合う「組手」と仮想の相手に対して攻防しあう「形」の習得を楽しむことができる。

②空手道は、身体各関節の迅速な屈伸運動を伴い、身体各部位を鍛錬するという発想に基づいた技法の体系である。

③空手道の基本動作や対人的技能では、左右対称の動きが多く、体全体をバランスよく使用するため、身体にとつて調和のとれた発達が期待できる。特に呼吸法では内臓諸器官が刺激されるとともに、精神の安定にもつながる。

④空手道の「組手」などにおいては、競い合う局面を通して、状況判断の確さ、勇気、決断力、礼儀などの精神面（態度など）を養うことができる。



父母の間からは女子の空手道の学習について積極的な意見が多かった



帯の締め方を指導する本校の教諭

7 安全に対する配慮

授業では、安全面に配慮し、形と約束組手の指導のみを行っている。自由組手を希望する者は、放課後の課外活動（＝空手道部の活動）に参加するよう促している。現在までのところ、授業・課外活動とも、骨折などの大きな怪我はない。



昇級試験の様子。動機付けにおいて、年2回実施している昇級試験の存在は大きい

8 必修化への課題

本校では男女とも空手道授業を必修にしている。空手道授業の導入については前もってPTA常任委員会で検討したが、父母の間から女子の空手道の学習について積極的な意見が多く、反対意見はなかった。むしろ、この点で男女を区別すべきでない



という意見が支配的であった。必修化への最大の課題は動機付けである。年2回の昇級試験の存在は大きい。しかし、昇級試験だけでは全員を空手道に取り組ませることはできない。2008年以降に入学した生徒は、本校が空手道を必修としていることを承知の上で入学している。一部の例外を除いてほぼ全員が昇級試験を目指して熱心に授業に取り組んでいる。しかし、2007年に、学年途中の9月から空手道授業を導入したため、3年生のなかに空手道の授業にあまり熱心でない生徒がいる。年2回の昇級試験がかなりの動機付けになっているようだが、それでも1、2年生と比べるとさらなる動機付けが必要である。

空手道の歴史や意義を伝えることも重要だが、各地で開催されている大会などを参観させたり、空手道を題材とした映画などを活用することも必要であろう。



今年のテーマ

START!

～一歩を踏みだそう～

24HOUR TELEVISION 32

8月29日[土]夜6:30～30日[日]夜8:54

24時間テレビ32「愛は地球を救う」メイン会場:東京ビッグサイト

●メインパーソナリティー／NEWS ●チャリティーパーソナリティー／菅野美穂 ●番組パーソナリティー／ネプチューン ベッキー ●総合司会／徳光和夫 西尾由佳理(日テレアナウンサー) ●チャリティーマラソンランナー／イモトアヤコ ●スペシャルドラマ／「にいにのことを忘れないで」 錦戸 亮 黒木 瞳 ほか

※募金の方法や、募金の使われ方など、チャリティーに関する詳しい情報はホームページをご覧ください。 24時間テレビ公式ホームページ www.ntv.co.jp/24h